

## 有機農業技術のつぼ

作物名	メロン
対応技術の項目	病虫害防除技術
	生物的防除法
	生物農薬（天敵）の利用

### 《情報収集先の経営概要等》

美瑛町 村上 寿裕 経験年数15年（うち有機年数15年）

経営耕地面積 22 ha（うち有機 5.5ha）

秋まき小麦	7.0 ha	メロン	0.7 ha（うち有機0.5ha）
さやいんげん	5.0 ha（うち有機0.5ha）	アスパラガス	0.5 ha
かぼちゃ	4.0 ha（うち有機1.7ha）	ほうれんそう	0.3 ha（うち有機0.3ha）
スイートコーン	2.25ha（うち有機2.25ha）	みずな	0.15ha（うち有機0.15ha）
大豆	2 ha	ピーマン（パプリカ）	0.1ha（うち有機0.1ha）

労働力 家族4人

有機JAS認定の取得状況 平成13年取得

### 問題点

病虫害の多発により品質が悪化していた

- ハウス内でハダニ類が多発し、メロンの果実の肥大や糖度に大きな影響を与えていた。

### 対応

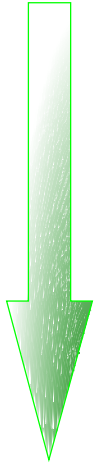
生物農薬（天敵）を導入した

つぼ

- 次により生物農薬を導入した。

- ・ 使用資材 : チリカブリダニ剤（スパイデックス）
- ・ 使用量 : 4,000頭/10a
- ・ 使用時期 : 6月10日頃から1週間間隔で2回散布
  - （ ・ ハダニ類が発生する6月中旬より以前に散布する。）
  - （ ・ 散布は、発生量の多い株元を中心に行う。）

※ チリカブリダニ剤は、注文してから届くまで1週間程度かかるので、注文時期が遅れないように注意する。



ハダニ類を捕食しているチリカブリダニ  
(写真提供：アリスタ ライフサイエンス株式会社)

※ **対応技術活用上の注意点**

- ・ ハダニ類が多発してから散布しても十分な効果が得られないため、注文や散布のタイミングに十分留意する。

**成 果**

**メロンの品質が向上した**

- 糖度不足により出荷不能となる果実が減少した。
  - ・ 導入前 30% → 導入後 0%



収穫されたメロン